

報道関係者各位

2021年3月31日
株式会社ステムセル研究所

最先端のIoTを備えた新細胞処理センターが横浜市に完成

- 再生医療への応用を推進、特定細胞加工物製造許可取得 -

株式会社ステムセル研究所（本社：東京都港区、代表取締役社長：清水 崇文）は、再生医療への応用を目的とした「さい帯血」の細胞保管サービスの需要増加に応えるため、受け入れ可能な検体数の拡充及び、日本初の事業として開始を予定している「さい帯（へその緒）組織」保管サービスへの対応を目的として、2020年6月より神奈川県横浜市に新たな細胞培養加工施設の建設を開始し、この度、完成しましたのでお知らせ致します。現有の細胞処理センター（Tokyo CPC：東京都港区）は、「再生医療等の安全性の確保等に関する法律」に基づく手続きを経て、厚生労働省（関東信越厚生局）より特定細胞加工物製造許可を取得しておりますが、新細胞処理センター（Yokohama CPC）においても、2021年3月12日付けで同許可を取得致しました。これに加えて、新施設は「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」に基づく、再生医療等製品の製造管理及び品質管理の基準であるGCTP（Good Gene, Cellular, and Tissue-based Products Manufacturing Practice）に適合可能な設備となっております。



写真①：Yokohama CPC

新施設では、新たにデータ収集制御システム（SMARTDAC+®）を取り入れ、また各部屋の温湿度、清浄度や各機器の温度等の測定データを24時間自動で監視・記録致します。さらにタブレット端末を使用し、現場から離れた場所からでもリアルタイムに遠隔監視ができるIoTを備え、アラーム発生時はレポートデータの検索や確認ができ、迅速な状況把握と対応が可能となっております。



写真②：データ収集制御システム(SMARTDAC+®)※

※スマートダック(SMARTDAC+®)とは
横河電機株式会社によるデータ収集制御システムで、直感的なタッチパネル操作ができる、AI 関連機能を標準搭載したペーパーレスレコーダ(記録計)です。入出力はフレキシビリティの高いモジュール構造で、さまざまな測定対象に対応します。また、拡張機能により、厚労省 ER/ES 指針、データインテグリティなどの厳しい規格にも対応できます。

さい帯血を用いた再生医療は、2020年に2件の臨床研究が国内で新たに開始され、これからますますその可能性が注目されるものと考えられます。また「さい帯組織」から採取できる間葉系細胞は、免疫調整作用、抗炎症作用や組織修復作用を有し、すでに国内外での臨床研究により、その安全性や有用性が確認されつつあります。

当社は新細胞処理センターの稼働により、さい帯血およびさい帯保管サービスの需要にお応えし、またそれらの細胞を用いた新しい医療の開発に貢献できるよう努めてまいります。

■ 施設概要

【名称】 Yokohama CPC

【所在地】 神奈川県横浜市

【処理能力】 年間 25,000 検体（従来の約 2.5 倍）

【施工会社】 株式会社日立プラントサービス

【設備投資金額合計】 約 5 億円



写真③：細胞処理室

■ 会社概要

株式会社ステムセル研究所は、赤ちゃんの「さい帯血」をお預かりする、民間さい帯血バンクのパイオニア企業です。現在、さい帯血の他、さい帯等、周産期の組織に由来する幹細胞を中心とした「細胞バンク事業」の拡大とそれらの細胞を用いた新しい治療法の開発に取り組んでおります。

設立年月日：1999年8月5日

資本金：3億7,482万円

代表取締役社長：清水 崇文（しみず たかふみ）

本社：〒105-0004 東京都港区新橋5丁目22番10号 松岡田村町ビル2階

TEL：03-5408-5279

グループ会社：日本トリム（東証1部上場）

ホームページ：<https://www.stemcell.co.jp/corporate/>

【本件に関する報道関係のお問い合わせ・ご質問はこちら】

株式会社ステムセル研究所 総合企画本部

TEL：03-5408-5270 / MAIL：stemcell@stemcell.co.jp